



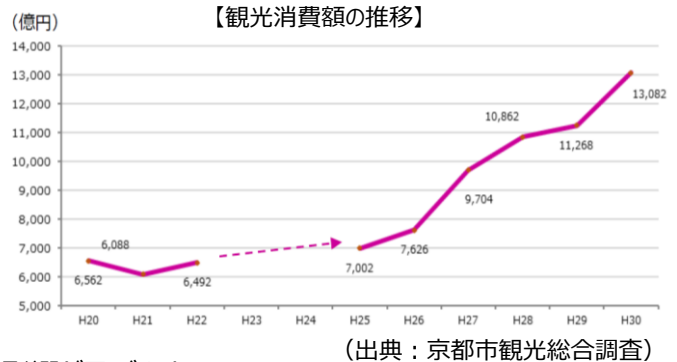
観光消費の経済波及効果

～ 経済波及効果って何なの？ ～

世界中の人々を魅了し、年間 5,000 万人を超える観光客が訪れる京のまち。

平成 30 年は、この入洛観光客による「観光消費額」が過去最高の 1 兆 3,082 億円を記録しました。これは、京都市人口の約半分 76.8 万人分の年間消費支出額に相当する額（市民 1 人当たりの年間消費支出額は 170.3 万円）です。

また、この観光消費が生み出す経済波及効果は 1 兆 4,179 億円にのぼったと推計しています。



■ 経済波及効果とは？

ある産業における経済活動は、その分野だけで完結しているわけではありません。

新たな需要が生まれ、生産が拡大すると、原材料の調達などを通じて、他の産業にも次々と影響が及びます。

さらに、生産に従事する従業員の所得が増え、この増えた所得による買い物や飲食などの消費が増加。投げ込まれた石により、水面に波紋が広がるように、新たな需要の発生により、多方面に影響が及ぶ...

これが「経済波及効果」です。

■ 観光消費による経済波及効果の中身は？

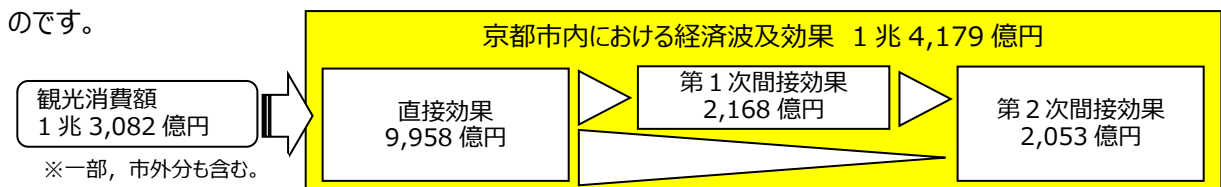
観光客の皆さんは、どういったことにお金を使うでしょう？

バスや鉄道などで移動する。おいしいものを食べ、友人へのお土産物を買う。ホテルや旅館でゆっくりくつろぐ... このような、観光客に提供される商品やサービスのうち、京都市内で調達される分の金額は、9,958 億円。このお金（直接効果）だけでも、非常に大きな金額にのびります。

そして、観光客の皆さんが食べたお料理に、京都産のお野菜が使われていたり、お友達へのお土産が京都の伝統産業品だった場合、そのお野菜や伝統産業品をお店に供給する農林業や製造業など、原材料等を提供する産業についても、生産が拡大することに（第 1 次間接効果 2,168 億円）。

さらには、ホテル・旅館での売上増や、伝統産業品の製造拡大は、これらの産業で働く人たちの収入増にもつながります。これらの人たちがお給料を使って、家賃を支払ったり、洋服を買ったりすることで、さらに多くの産業にまで影響が及ぶことになるのです（第 2 次間接効果 2,053 億円）。

これらの合計 1 兆 4,179 億円が、観光消費による経済波及効果。観光に直接関連していない産業も、材料の調達や働く人の消費行動を通じて、間接的に観光消費による経済波及効果を受けているのです。



■ 一層、経済波及効果を市内に行き渡らせるには？

「その土地ならではの美味しいものを味わい、記念となるお土産を買うこと」は、観光の大きな楽しみですね。お料理やお土産において、地産地消の促進に取り組むことは、「京都らしさ」を求め入洛する観光客にとってうれしいこと。また、このような市内産材の消費拡大は、直接効果や第 1 次間接効果を大きくし、経済波及効果を市内に行き渡らせることにもつながります。

地産地消の促進、つまり、京都ならではの「おもてなし」を進めることが、京都経済のさらなる活性化のうえでも有効なのです。